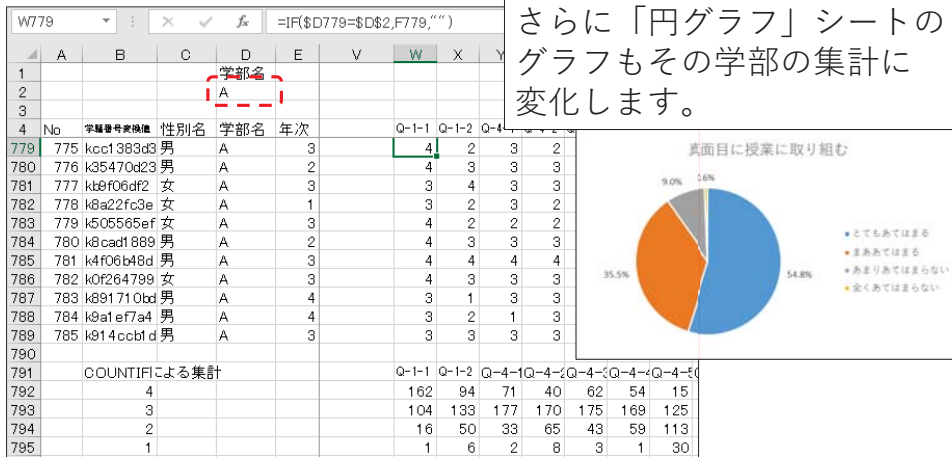


学部別の自動集計 (1)

「学部別」シートは、D2セルにA,B,Cを入力すると、その学部の回答がW792:AL795に集計されます。



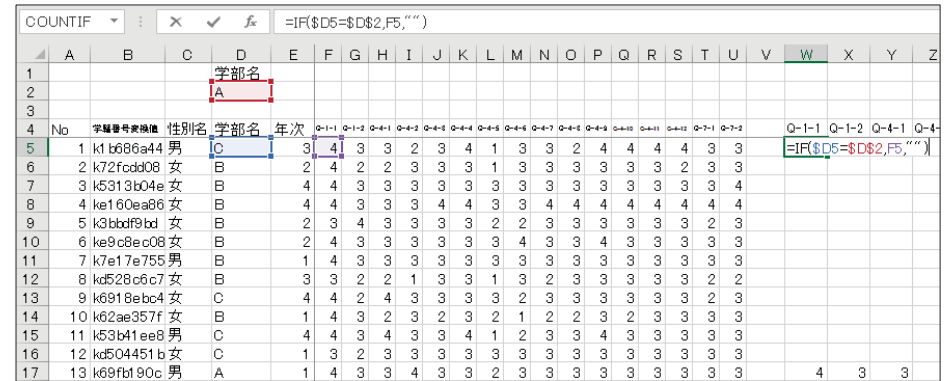
97

学部別の自動集計 (2)

F~U列には全体の回答が記載されています。

W5の数式は=IF(\$D5=\$D\$2,F5,"")

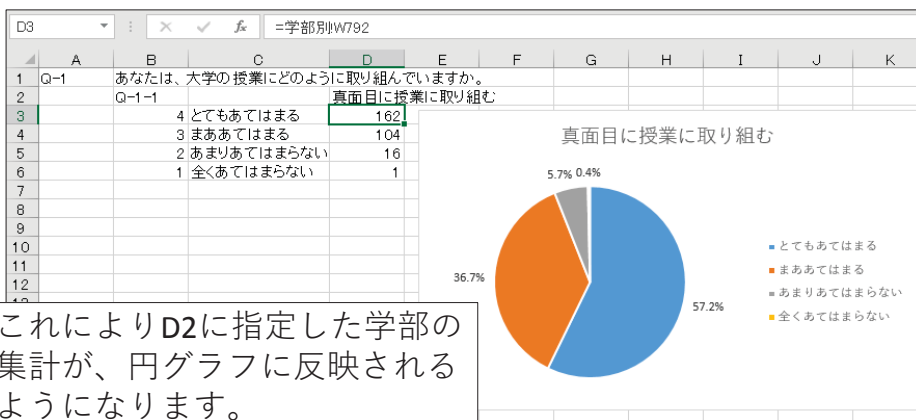
ですが、D列のその行の値がD2セルと等しければF列を表示し、等しくなければ何も表示しない、という数式になっています。



98

学部別の自動集計 (3)

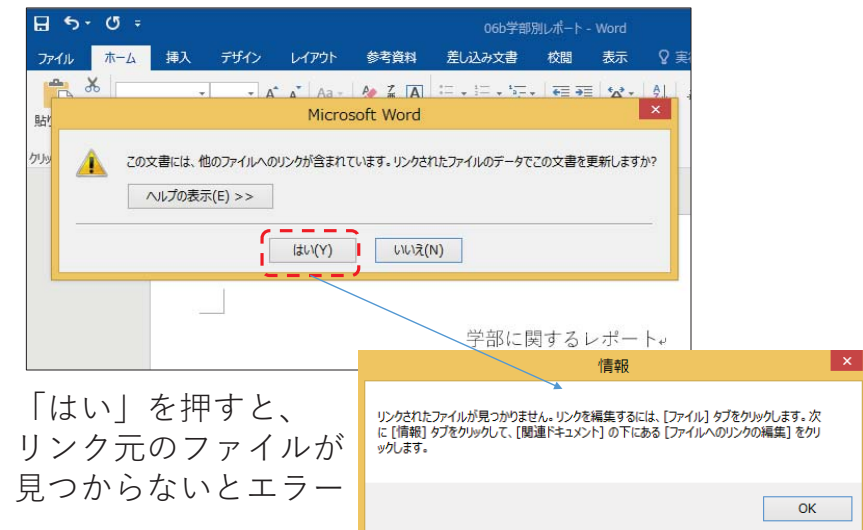
「円グラフ」シートでは、学部別シートから値のコピーをするのではなく Q-1-1 の4を集計する D3セルは、
=学部別!792
と「学部別」シートに求まった値を引っ張ってきています。



99

リンク貼り付けの活用 (1)

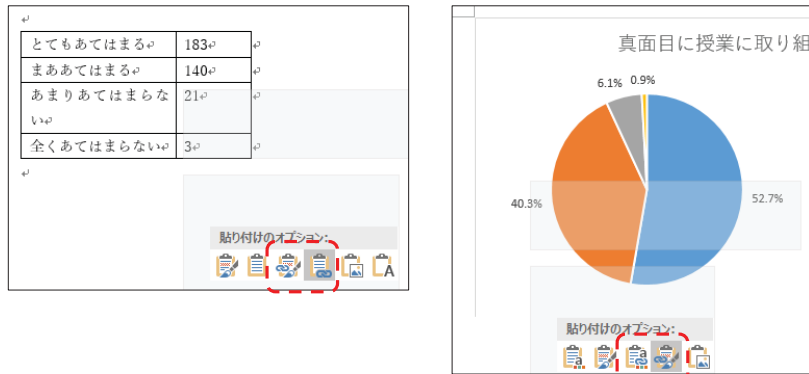
Excelからグラフを貼り付けたファイルを開こうとして、下図のような表示を見たことはないでしょうか？



100

リンク貼り付けの活用 (2)

Excelの表やグラフをWordに貼り付ける際に、「リンク」の形式を選択すると、Excelファイルを参照するリンク情報もWordに貼り付けられます。

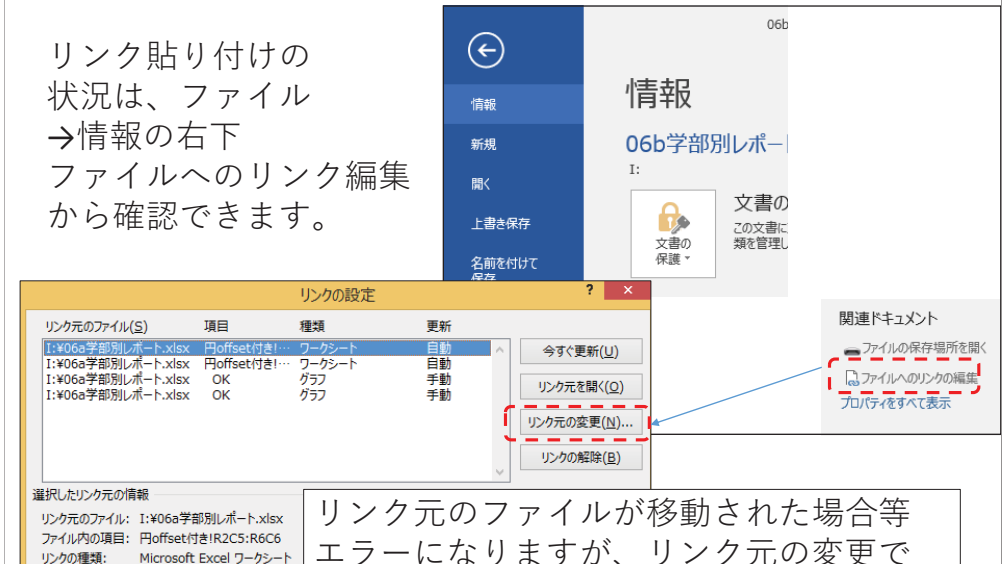


「リンク」形式の貼り付けでは、Wordファイルを開いた時などに、リンク元のファイルの最新の内容で更新しようとしています。

101

リンク貼り付けの活用 (3)

リンク貼り付けの状況は、ファイル→情報の右下
ファイルへのリンク編集から確認できます。

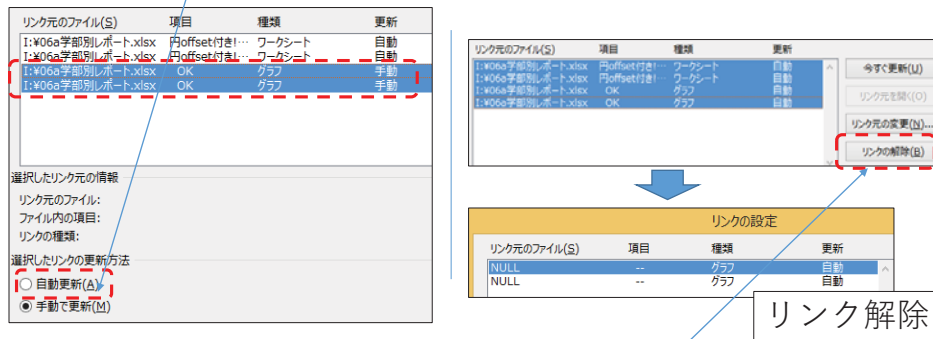


リンク元のファイルが移動された場合等エラーになりますが、リンク元の変更で移動先のファイルを指定すれば戻ります。

102

リンク貼り付けの活用 (3)

標準では、表は自動更新、グラフは手動更新のようですが、どちらも自動更新にすると、Excelファイルの内容を学部ごとに変更すると、Wordファイルの内容も変更されます。



変更されたファイルを別名で保存し、リンクを解除すれば、全く同じフォーマットの学部別レポートを作成可能です。

103

リンク貼り付けの活用 (4)

Wordファイルを開いた時、Excelファイルも開いた状態になるので、以下の手順で更新するのがおすすめです。

1. リンク元のExcelファイルを開いて学部情報を修正して保存
2. Wordファイルを開き、リンク元の修正を反映させる。
3. 修正が反映されたWordファイルを別名で保存
4. 保存した別名ファイルのリンクを解除
5. Excelファイルを閉じる

リンク更新時に無効になる書式設定があるなど、扱いが難しい作業です。慎重によく確認して適用しましょう。

104

[発展] OFFSET関数の利用

OFFSET関数で、特定のセル（参照）から
行数、列数分ずれたセルの値が参照可能

OFFSET			
参照	学部別!\$W\$792		
行数	B3-1		
列数	A3-1		

円offsetシート

円offsetシート										
	行	列	Q-1	Q-2	Q-3	Q-4	Q-5	Q-6	Q-7	Q-8
2										
3	1	1								
4	1	2								
5	1	3								
6	1	4								
7										
8										
9										
10										

別の場所に記入した
列数、行数を参照する
ようにしておけば、
その列数、行数を変更
するだけで、別のグラフ
の処理が完了します。

学部別シート

学部別シート										
	学部名	年次	Q-1-1	Q-1-2	Q-1-3	Q-1-4	Q-1-5	Q-1-6	Q-1-7	Q-1-8
2	A	4								
3										
4	No	学部番号	性別	学部名	年次	Q-1-1	Q-1-2	Q-1-3	Q-1-4	Q-1-5
788	784	k9a1e7a4	男	A	4	3	2	1	3	3
789	785	k914ccb1	男	A	3	3	3			
790										
791										
792										
793										
794										
795										

学部別!W792

列数

行数

[発展] COUNTIFS, OFFSETの組合せ (1)

OFFSET関数は高さ、幅を
指定すると、長方形の
セル領域も指定可能

COUNTIFS関数で、
複数の範囲、条件の組
を全て満たす個数を
数えられる。

全体シート						
	Q-1-1	Q-1-2	Q-1-3	Q-1-4	Q-1-5	Q-1-6
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						

全体シート
F列から続く
2行目からの
1列の785個
のデータ

関数の	
COUNTIFS	
検索条件範囲1	OFFSET(全体!\$F\$2,0,\$A7-1,7
検索条件1	\$B7
検索条件範囲2	OFFSET(全体!\$D\$2,0,0,785,1
検索条件2	R\$1

条件1
(選択肢4)
条件2
(A学部)
⋮

[発展] COUNTIFS, OFFSETの組合せ (2)

直接集計シートでは、A、B列で集計すべき質問と
選択肢の情報を指定し、1行目で学部情報を指定
することで、全学部の各質問の集計を半自動化

直接集計シート

直接集計シート										
	列	行	あなたは、大学の授業にどのように取り組んでいますか。	真面目に取り組む	真面目に取り組む	真面目に取り組む	真面目に取り組む	真面目に取り組む	真面目に取り組む	真面目に取り組む
2										
3										
4										
5										
6										
7	1	4								
8	1	3								
9	1	2								
10	1	1								
11										

学部別!W792

絶対参照と相対参照を使い分けることで、
全学部の集計 : G7の数式をコピー
学部ごとの集計 : R7の数式をコピー
で、すべての集計を済ませています。